

企業理念・目次

Materials Innovation

マテリアルを通じて価値を創造し、人間社会(人・社会・環境)に貢献します。

経営方針

私たちJSRグループは、意思決定と活動のフレームワークを構築し、個々人の判断の拠り所となるべく基準として経営方針を定めています。

持続的成長を続けるための普遍的な経営方針としての「変わらぬ経営の軸」と社会の一員としての責任を表した「ステークホルダーへの責任」という2つの軸により構成されています。

変わらぬ経営の軸

- 絶え間ない事業創造
- 企業風土の進化
- 企業価値の増大

ステークホルダーへの責任

- 顧客・取引先への責任
JSRグループの全顧客・取引先に対する責任です。
- 従業員への責任
JSRグループ全社員に対する責任です。

- 社会への責任
我々が生活し、働いている地域社会、更には全世界の人間社会に対する責任です。

- 株主への責任
株主全体に対する責任です。

目次

価値創造

- 2 企業理念・目次
- 3 企業理念実践の軌跡
- 4 At a Glance
- 5 社会課題解決に向けて
- 6 中長期価値創造
- 7 JSRのマテリアリティ
- 8 マテリアリティとKPI
- 9 財務情報
- 10 非財務情報

経営方針・戦略

- 11 CEOメッセージ
- 17 中期経営方針
- 19 デジタルソリューション事業
- 23 ライフサイエンス事業
- 26 合成樹脂事業
- 28 CTOメッセージ
- 29 先進事例

価値創造を加速する源泉

- 30 サステナビリティ推進担当
役員メッセージ
- 31 サステナビリティ推進体制
- 32 人財
- 35 環境
- 38 TCFD提言に基づく報告
- 39 安全・健康
- 41 人権尊重
- 42 サプライチェーンマネジメント
- 43 コーポレート・ガバナンス
- 51 役員一覧
- 52 コンプライアンス
- 54 リスクマネジメント
- 55 ステークホルダー・
コミュニケーション

データセクション

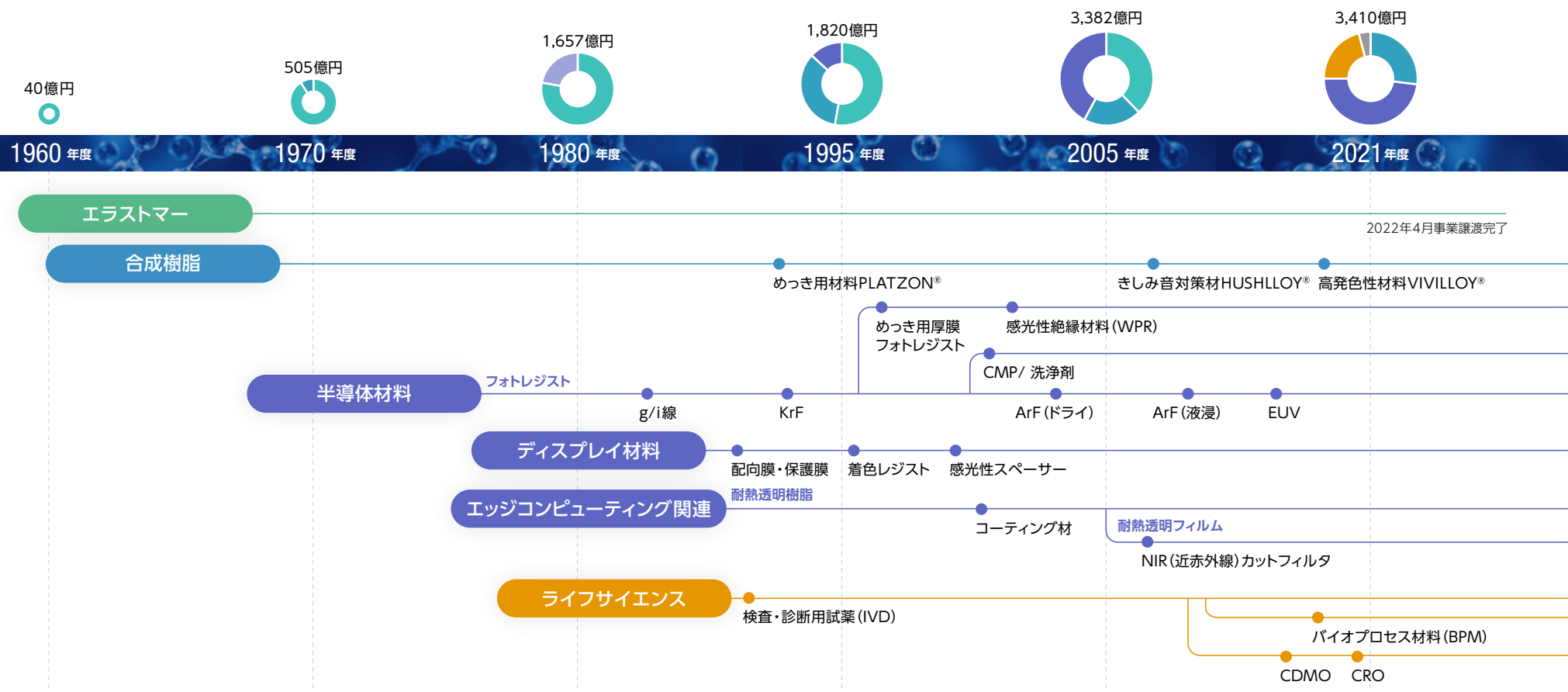
- 57 10年間サマリー
- 58 グループ会社一覧
- 59 会社概要
- 60 経営成績の分析
- 65 連結財務諸表

企業理念実践の軌跡

JSRは、リーディングテクノロジーカンパニーとして、時代の変化とニーズに対応し、社会へインパクトを示しながら事業ポートフォリオを最適化してきました。

事業ポートフォリオの変化 (円の大きさは売上高のイメージ)

■ エラストマー ■ 合成樹脂 ■ デジタルソリューション ■ 合成樹脂&デジタルソリューション ■ ライフサイエンス ■ その他



事業を通じた社会への貢献 (インパクト)

たとえば、自動車の普及に

1960年に合成ゴムの国産化を実現し、モータリゼーションの発展に寄与。また、内装材に合成樹脂が採用され、自動車の快適性にも貢献しています。



たとえば、電子機器の拡大に

半導体製造に使用されるフォトレジストの微細化により、高性能な電子機器開発が可能となり、情報通信産業の発展に貢献しています。



たとえば、液晶テレビの全盛期に

培ってきた高分子技術を活かし、液晶ディスプレイの高輝度、高精彩に貢献する豊富なラインナップを開発。薄型テレビの普及に貢献しました。



たとえば、バイオ医薬品開発で

JSR独自のポリマー粒子を用いた担体「プロテインAアフィニティ」を開発。バイオ医薬品の製造において生産性向上に貢献しています。



At a Glance

デジタルソリューション事業



世界トップクラスの製品で豊かなデジタル技術を実現

半導体材料事業

半導体製造工程を支えるリソグラフィ材料（フォトレジスト、多層材料）やCMP※材料、洗浄剤、デバイスのパッケージに使われる先端実装材料など多様なラインアップを有し、世界の半導体メーカーのニーズに応えています。

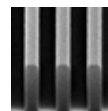
ディスプレイ材料事業

スマートフォン、液晶テレビなどの液晶ディスプレイパネルに使用される配向膜や絶縁膜、有機ELディスプレイ向けの絶縁膜や平坦化膜など、高画質化・軽量化・低消費電力化といったニーズに応じた材料を提供しています。

エッジコンピューティング事業

ICTやAIなどによる技術革新やモバイルなどのデバイス進化に対応した材料を提供しています。

※ 化学的機械的平坦化



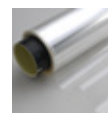
リソグラフィ材料

半導体製造工程の基板上の電子素子や回路の微細加工に使用され、半導体チップの高性能化・小型化に貢献する感光性材料。



LCD材料

液晶ディスプレイに使用され、高画質・低消費電力を実現する材料。



耐熱透明樹脂ARTON®

優れた光学特性、寸法安定性、耐熱性を有する透明な樹脂。ディスプレイの光学補正やカメラに搭載され自然な色の写真撮像を可能にする。

ライフサイエンス事業



がん領域の創薬支援で健康寿命に貢献

CDMO事業（バイ医薬品の開発・製造受託）とCRO事業（医薬品の開発受託）を提供する「創薬支援サービス」や、より高度な疾病診断および予防診断に貢献する診断試薬材料、抗体医薬品精製用担体などのバイオプロセス材料など、最新の技術を活用した材料やサービスを提供しています。



創薬支援サービス

創薬から製造までの一貫した支援体制をグローバル展開し、医薬品の開発成功確率向上や開発期間短縮を実現。



バイオプロセス材料、診断・研究試薬材料

タンパク質や細胞といった生体材料の単離・精製、個別化医療の鍵となる疾患診断のための体外診断試薬材料。バイオ医薬品の製造プロセスの最適化に貢献する材料。

合成樹脂事業



ひとの五感に寄り添う、高品位高機能ABS樹脂を提供

自動車部品、家庭電化製品、建材などに使用されるABS樹脂製品を中心に、自動車のきしみ音対策材、無塗装高発色性材料やめっき用材料などを扱っています。多様なニーズに柔軟に対応する技術力により、複数の特性を組み合わせたユニークな製品の開発と部品設計に取り組み、世界中のユーザーに高品質・高付加価値の安定した製品を提供します。



ABS系樹脂

高い実用耐性、耐衝撃性、加工性、耐候性を備えた、自動車・建材部品などに用いる耐熱・耐候性グレードを提供。

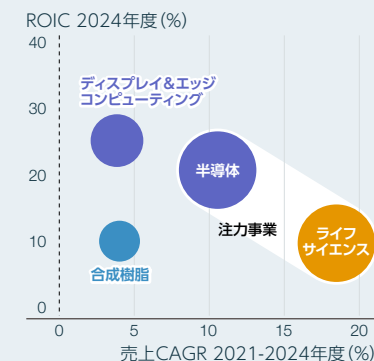


きしみ音対策材HUSHLLOY®

部品が擦れ合うことで発生する不快なきしみ音を防ぎ、きしみ音対策の効果の永続と部品コストの削減に貢献。

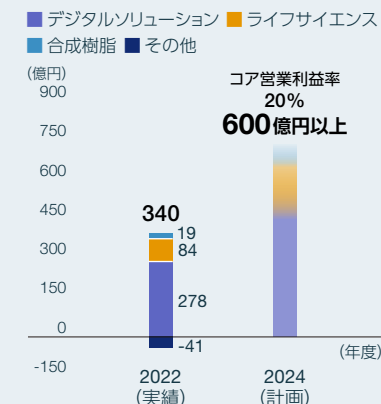
2024年度に目指す事業ポートフォリオ

デジタルソリューション事業 ライフサイエンス事業が 事業の中核へ



※ 円の大きさ：2024年度のコア営業利益

コア営業利益は 最高益の600億円以上



社会課題解決に向けて

JSRグループでは社会の課題を長期視点で捉え、4つのマクロトレンドを設定し、当社におけるリスクと機会を明確化することで、社会に貢献します。

JSRが考えるマクロトレンド(社会課題)



成長への機会

- ライフサイクルCO₂削減の機運の高まり
(気候変動問題がクローズアップ)
- 環境に貢献する製品の需要増
- 生活構造の変革
- 先進的脱炭素技術の普及
- 自動車業界の変化・EV主流化の影響
- 再生樹脂、再生可能な樹脂の需要が増大

潜在するリスク

- GHG排出規制の強化
- 炭素価格の設定と高騰
- 脱炭素化製品を要求する顧客の出現
(RE100など)
- エネルギー源の低炭素化の進展
- サステナブル金融の主流化
- 人財確保の変化

社会への貢献 課題解決



JSRグループは、常に進化を続ける高い技術力により、IoT、AI、5Gを活用したスマート社会に貢献し、世界中の一人ひとりがより豊かである社会を実現することを目指します。



最新の技術を活用した材料・素材やサービスの提供により、バイオ医薬品開発プロセスの効率化・短縮化などを支援しています。個別化医療に向けたサービスや製品の提供などにも取り組み、健康長寿社会の実現に貢献します。



製造段階での地球環境保全の取り組みだけでなく、製品段階における環境負荷低減につながる新事業機会創出など、幅広い視点から環境問題に取り組んでいます。



中長期価値創造

社会課題を捉え、JSRの強みである技術を通じて社会に貢献し
企業価値の向上に取り組みます。

企業理念 Materials Innovationの実現



事業活動 OUTPUT

OUTCOME



デジタルソリューション事業

最先端の半導体材料、ディスプレイ材料等の提供

売上収益

1,704 億円*

ライフサイエンス事業

創薬プロセス支援および診断薬・研究試薬の提供

売上収益

1,265 億円*

合成樹脂事業

自動車部材を中心に高性能な樹脂製品を提供

売上収益

958 億円*

強靱な組織をつくるフレームワーク 5 ファウンデーションズ

2 グローバリゼーション

5 イノベティブカルチャー

1 サステナビリティ

3 オペレーショナルエクセレンス

4 デジタル化

* 2022年度

マテリアリティ

レジリエント (強靱) な経営基盤 / ESG

顧客企業への貢献

- 技術革新
- 製品安全性
- 製造プロセスの効率化
- 顧客企業との協業



社会への貢献 課題解決

生活の質向上・幸福な社会



健康長寿社会



地球環境保全



新たなマクロトレンドの発生

社会課題の解決を目指す

JSRのマテリアリティ

JSRのマテリアリティは、事業活動と経営基盤の2つの側面から策定しています。2021年3月に発表した中期経営方針においてもこの内容を反映し、レジリエントな経営基盤の中核をなすものと位置づけています。

また、マテリアリティは、社会からの要請の変化、さまざまなステークホルダーからの意見やニーズによって変わっていくものです。今後もマテリアリティの見直し・特定を行っていきます。

マテリアリティ見直し・特定の運用について

- ① 適切なタイミングで、有識者、従業員、レスポンスブル・ケア活動などでのエンゲージメントを通して妥当性を確認する
- ② 新たな中期経営方針策定のタイミングで、有識者の方々との意見交換を通して、マテリアリティを特定する過程の透明性や納得性を確保しつつ定期見直しを実施する

特定プロセス

事業活動

各事業部ヒアリング調査

4事業部ごとにポジティブ・ネガティブインパクトについてヒアリング調査とディスカッションを実施

デジタルソリューション事業

ライフサイエンス事業

エラストマー事業

合成樹脂事業

事業部合同ディスカッション

JSRグループとしてポジティブ・ネガティブインパクトを把握

4事業をまとめ
グループ全体として
ネガティブ・ポジティブ
両インパクトをまとめる

経営基盤

若手社員による 2回のワークショップ

専門部署に偏らない多様性のバランスも配慮した若手社員10名によるJSRの重要活動テーマの優先順位の検討を行った

環境

従業員 (DE&Iと働き方)

安全・健康

人権

上記が抽出された。

専門部署ではない全社的な社員の言葉として貴重な意見が収集できた。

専門部署を交えた ワークショップ

2回のワークショップの結果を受けて、専門部署を交え主要課題の「環境」と「従業員」に対する深掘りのワークを行った

サプライチェーンに関わる各部署の部長級7名による意見交換

専門部署と他部署社員との意見交換

マテリアリティ

事業活動

事業ごとに推進 アウトカムのインパクト

生活の質・幸福への貢献

健康長寿社会への貢献

地球環境保全への貢献

経営基盤

グループ全体で推進 5つの重要課題

環境保全・負荷低減

従業員 DE&I 働き方

安全・健康

人権尊重

サプライチェーン

コーポレート・ガバナンス

マテリアリティとKPI(Key Performance Indicator)



詳細は、サステナビリティサイトをご参照ください。
<https://www.jsr.co.jp/sustainability/management/issues.shtml>

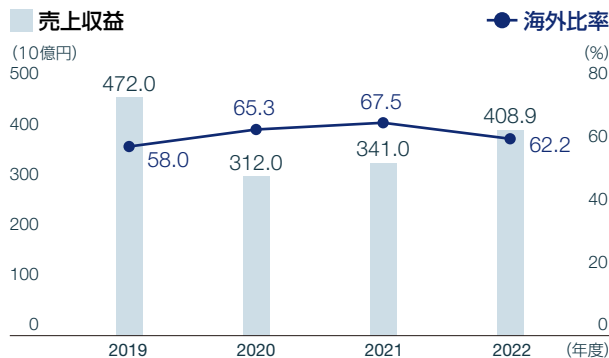
事業活動におけるマテリアリティ	目的	KPI	2022年進捗・結果	2024年度目標	対象
生活の質・幸福への貢献	<ul style="list-style-type: none"> デジタルソリューション事業 スマート社会におけるデジタル化の発展に貢献するマテリアルの提供 スマート社会における消費電力量の削減 	サステナビリティ製品の販売 サステナビリティ製品の販売比率	2.3倍 2.0倍	3倍*1 2倍*1	グループ全体
健康長寿社会への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ライフサイエンス事業 医薬品開発期間の短縮 顧客企業の医薬品開発成功率向上 	サステナビリティ製品の販売	1,265億円	1,000億円	グループ全体
地球環境保全への貢献	<ul style="list-style-type: none"> 合成樹脂事業 車両のきしみ音軽減による、より快適なドライブの実現 プラスチック資源循環の実現に向けた製品の提供 	サステナビリティ製品の販売 サステナビリティ製品の販売比率	14千トン 7%	27千トン*2 10%*2	グループ全体

※1 2020年度比 ※2 サステナビリティ製品を見直し、数値目標を変更

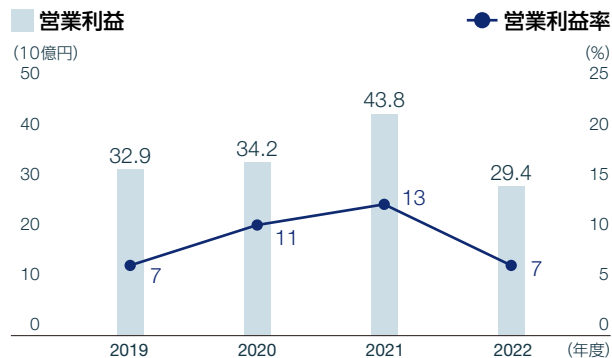
経営基盤におけるマテリアリティ	目的	KPI	2022年進捗・結果	ゴール	対象
環境保全・負荷低減	GHG排出量削減	GHG排出量の削減(2020年度対比)	9.2%減 ▶P.36	2030年度:30%削減 2050年度:100%削減	グループ全体
	廃棄物量削減	最終埋め立て量	0.1%以下維持(DS、PL事業) ▶P.37	0.1%以下	グループ全体
従業員 DE&I 働き方	従業員エンゲージメント向上	継続的にエンゲージメント向上に取り組む	グローバルでの強みの明確化、共通課題への取り組みと、特に日本・北米での個別取り組みを推進 ▶P.33	エンゲージメントの継続的向上と、そのための取り組み継続	グループ全体
	DE&Iの推進	女性管理職比率	5.8%(2023年3月31日時点) 6.5%(2023年4月1日時点) ▶P.34	2030年度:10%	JSR単体
安全・健康	安全な職場環境の構築	労働災害の件数 設備災害の件数	4件(休業) 0件 ▶P.40	ゼロ(2023年度は半減が目標) ゼロ	グループ全体
	従業員の健康増進	経済産業省が認定する、健康経営優良法人上位500社以内(「ホワイト500」認定)	健康優良法人選定(ホワイト500は未選定)	ホワイト500の取得	JSR単体
人権尊重	全従業員への人権教育を提供し、人権意識を醸成する	人権尊重に関するイーラーニングへの参加率	82% ▶P.41	80%以上	グループ全体
サプライチェーン	サプライチェーン管理の強化	JSRグループCSR調達方針および人権方針配布後の賛同書回収率	90% ▶P.42	100%	グループ全体
		RMIテンプレート(紛争鉱物およびコバルトに関する調査)回収率	CMRT:88% EMRT:88% ▶P.42	100%	グループ全体

財務情報

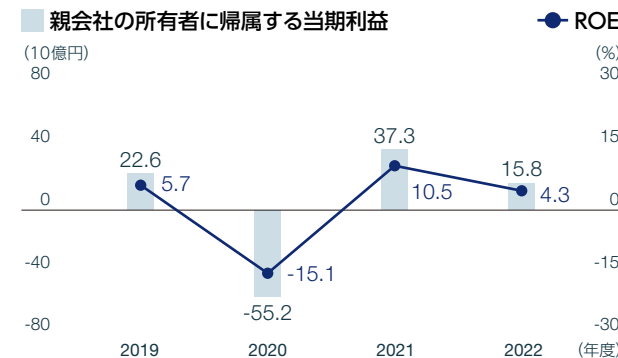
※2021年度よりエラストマー事業を非継続事業に分類しています。2020年度は、一部を組み替えて表示しています。



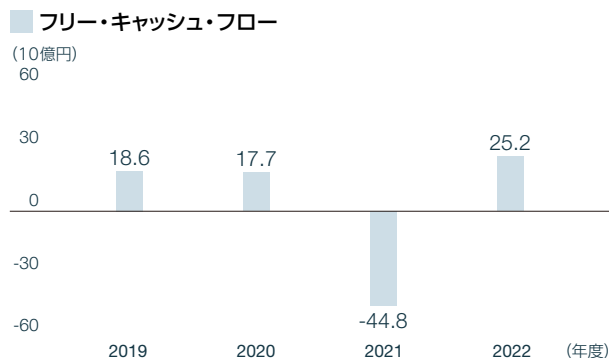
半導体材料事業とライフサイエンス事業を中心とし売上収益を押し上げています。上記2事業の主要市場は、海外であり海外比率は増加傾向にあります。



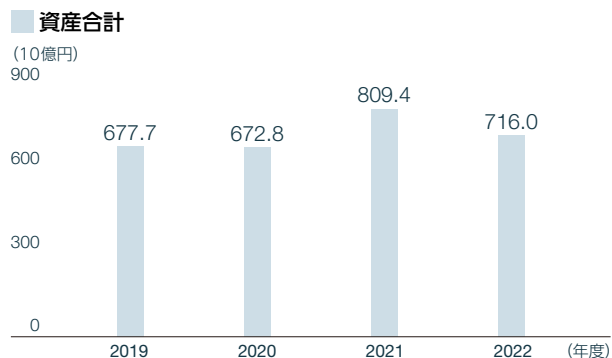
2024年度に向けた経営方針で掲げた過去最高利益600億円以上の達成に向けて、高付加価値製品へ資本を優先的に投入し、さらなる利益率の向上に努めていきます。



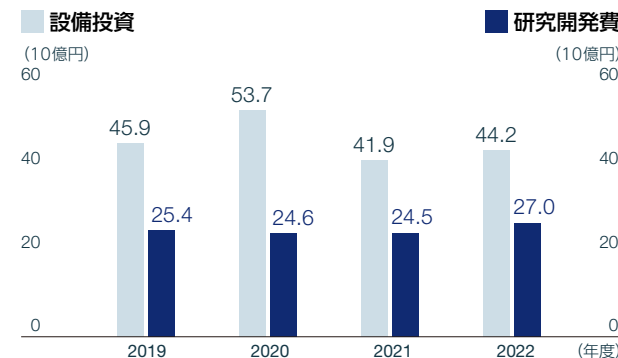
2024年度に向けた経営方針に掲げた事業目標であるROE10%以上の達成に向けて、高付加価値製品へ資本を優先的に投入し、さらなる利益向上などによりROE向上に努めます。



成長分野への投資を着実に実行していくことにより、持続的な利益成長を達成し、企業価値の向上を目指しています。

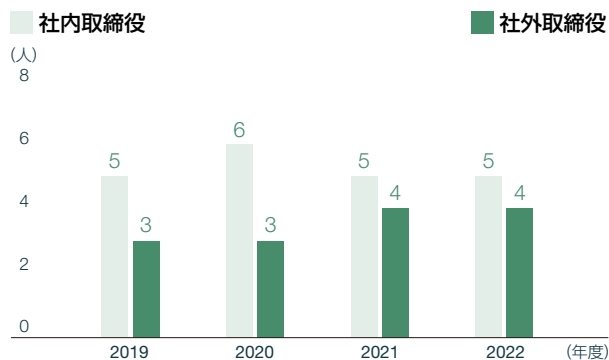


事業拡大に向けたM&Aなどにより資産は増加傾向にあります。財務健全性維持のために、中期の資源配分方針の設定や、ROIC、ROEなど資産効率、投資効率の管理を全社ならびに事業別に行っています。また、財務健全性を維持するDebtキャパシティのモニタリングや調達手段の多様化の取り組みなどを適宜行っています。

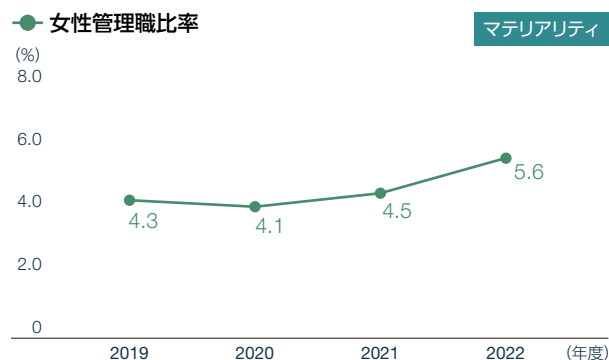


経営方針期間中に2,500億円程度の営業キャッシュ・フローを想定しています。内訳として、1,400億円程度はCAPEX(資本的支出)として半導体材料事業とライフサイエンス事業への投資を計画しています。その他の用途として、機動性と柔軟性を高めつつM&Aを含めて成長投資を実行していきます。

非財務情報



グローバル化、IT化、デジタル化等の事業環境の急速な変化に対応すべく、2019年度はJSR初の外国籍CEO(最高経営責任者)を、2020年6月には社内から初の女性取締役を選任しました。2021年度には外国籍社外取締役が選任され、取締役会のさらなる多様性の拡充を進めています。



JSRは、ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンを尊重し、従業員のニーズ変化に対応できるよう進化しています。2030年度に女性管理職比率を10%にすることをKPIとして施策を進めています。

※各年度4月1日現在

連結従業員数

7,994人

グローバルネットワーク

国内 19 拠点

海外 28 拠点

2023年7月1日時点

温室効果ガス排出量

マテリアリティ

218千トン-CO₂

エネルギー使用量
(エラストマー事業含む)

0.33 KL/トン

廃棄物量(最終埋め立て量)

マテリアリティ

0.1%以下維持

(デジタルソリューション、合成樹脂事業)

労働災害発生件数

マテリアリティ

JSR株式会社 1

JSR株式会社 協力会社員 0

国内グループ企業 2

国内グループ企業 協力会社員 2

海外グループ企業 1

海外グループ企業 協力会社員 0

障がい者雇用率

2.47%

保有特許数

4,930件